

2 0 1 7 8 / 1 5 第 3 1 号

ふくしま 再生 短信

2 0 1 7 夏 ふくしま



ひまわり の ま お い 向日葵と野馬追

【写真】（上）飯館村佐須・ひまわりのお花畑。（下左）小高神社の神馬は進む。（下右）審判席前の小高の騎馬武者たち。

2017年7月29日午前、国道115号線から県道31号・浪江国見線に入ると直ぐに佐須峠を越えて飯館村に入る。峠を下っていくと眼前に次々と展開するのは美事なひまわりのお花畑だ。このお花畑は田圃の除染後の地力増進と美しい村の景観を復活するために、佐須復興組合（組合長・菅野和彦さん）の事業として実現した。



柔らかい日射しを浴びながら、ひまわりは一輪一輪が太陽に向かって精一杯輝いている。

この日午後記者は再

生の会のメンバーと相馬地方の伝統行事「相馬野馬追」会場に向かった。今年東電福島第一原発事故以来中断していた南相馬小高区の武者行列が7年ぶりに実施された。陣羽織姿の110騎が小高の中心部を巡った（河北新報2017/7/30日号）。野馬追の会場に現れた神馬（しんめ）をはじめとする小高の馬たちは「競馬会の馬」とは違い足も頑丈で太く農耕馬の血統を彷彿とさせる。甲冑競馬と神旗争奪戦は30日実施。

2017ふくしまの夏をお伝えしました。（文責&撮影・若林一平）



再生の会が飯館村広報誌で紹介されました：[飯館村](#)→[村政](#)・[まちづくり](#)→[広報](#)・[広聴](#)・[広報誌](#)→[広報いいたて](#)→[平成29年7月号](#)

ふくしま 再生 短信



7 / 30 佐須老人クラブ交流会

【カット写真（左上から時計回り）】1.～4. ラダーゲッターに挑戦する老若の選手たち。5.会長・大内定子さん挨拶。6.東大いいはな会の学生たち。7. 内科医・相澤力さんの健康講話。8. 管理栄養士・青山さんの創作ランチ。9.健康医療ケアチームの足湯・足もみ・爪切り・フットケア。10.再生の会理事長・田尾陽一さんのレクチャー。【背景写真】菅野永徳選手得点の瞬間。

2017年7月30日午前10時から、飯館村佐須公民館（旧佐須小学校に隣接）において佐須老人クラブ（会長・大内定子さん）の交流会が開催された。この日のハイライトは、ラダーゲッターのゲーム大会である。このゲームは社会福祉法人飯館村社会福祉協議会の齋藤香織さんが持参したもの。

初めは戸惑っていた選手達も大いにわき始めていた矢先に東大溝口勝さん

と若者達19名が到着し参戦した。佐須小学校に響きわたる若者の大歓声。老人クラブメンバーの意気も一気に高揚したことは言うまでもない。ゲームの後、老人会は健康医療ケアチーム（リーダー・中町英佐子さん）の健康講話と個別のケアへ、若者はレクチャー会場へ移動した。

この間、相澤さんの講話『私たちの体と栄養素』を体現したランチに老若

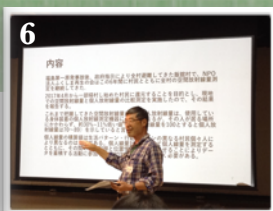
全員が舌鼓を打った。老人最高得点・佐々木謹一さん「村に戻って好きなことができる。収穫物を調べたら全部安全、自分で作り食べる楽しさ、幸せです」永徳さん「66戸の部落7戸戻ってきた。住んで楽しいけれど、生活の糧がないと村に戻れないことも事実。今日はありがとうございました」、大内さん「どうぞまた来て下さい」と謝辞を述べた。（撮影・文責：若林一平）

2017 9 / 26 第 33 号

ふくしま 再生 短信

8/26 飯館村 「2011-2017放射能・放射線協働測定報告会」 同行記

※ 再生の道に向けて ※



【写真説明】1. 門馬伸市副村長挨拶。2～7は報告者、順に、菅野宗夫さん、小原壮二さん、伊井一夫さん、森本品子さん、田尾陽一さん、溝口勝さん。8. 東大応援部の演武。9. 討議に参加する佐須行政区長・佐藤公一さん。10. 当日会場全景。

2017年8月26日午後2時から飯館村交流センター「ふれ愛館」で、認定NPO法人ふくしま再生の会主催「6年間の放射能・放射線の協働測定結果報告会」が開催された。理事長・田尾陽一さんの司会で進行。冒頭に飯館村副村長・門馬伸市さんは「四月に田尾さんが村に移住、村民の7%、企業の14-15%が帰ってきた。帰村から取り残された長泥を何とかしなければ」と挨拶した。宗夫さんは「6年前のみなさんとの出会い以来測定は継続している。測定は日本全国誰もが自分を・自分

の地域を知ること」と言う。小原さんは車載・徒歩・田圃土壌の全村測定、伊井さんは稲・野菜を中心に、森本さんは山野草の、佐野隆章さんは居宅と周辺の測定結果を報告。田尾さんは「個人放射線量と空間放射線量の比較測定」で個人の实生活に即した事実確認と村民への還元が必要と訴えた。溝口さんはICTの活用に加え帰村後の16の村おこし案を提案した。

この日行われた東大応援部の力強い演武は村の人たちに限りない感銘を与えた。（文責&撮影・若林一平）

10月22日 ふくしま再生の会第16回報告会開催します

8 / 26 - 27 東大応援部来村

演 舞 爛 漫

東大応援部
三人衆

上の写真中央は船田温さん（愛称・鉄仮面）、左の太鼓は山東駿さん、右は藤本華苗さん。船田さん「村の人びとがそれぞれに自分にできることを見つけて着実に前に向かって進んでいる姿に感銘」、山東さん「再生の会の若い人たちが問題を発見し解決に向かっている」、藤本さん「みなさん元気に情報発信し行動力も若者に負けていない、食べ物おいしい」とそれぞれに村訪問・活動見学の感想を語った。

【背景写真】中央は山東駿さん、太鼓のサポートは船田温さん。【カット写真】1. ボーリング大会の会場・佐須小学校の廊下。2. 渾身の力の一投・ガッツに溢れた菅野次男さんの表情をご覧ください。3. 老人クラブ副会長・菅野永徳さんから優秀賞を受けとる次男さん。4. 東大応援部を囲んで青山さんのレシピで頂くランチ。5. 佐須地区長・佐藤公一さんから恭しく花束を受けとる代表・山東さん。

2017年8月27日、午前11時過ぎ佐須老人クラブ（会長・大内定子さん）のミニボーリング大会が開催されている旧佐須小学校（飯館村佐須公民館内）に東大応援部3人衆が来訪した。前主将・山東駿さん（大学院農学生命科学研究科獣医学専修）、現主将・船田温さん（文学部歴史文化学科日本史学専攻）、そしてチア経験者の藤本華苗さん（農学部国際開発農学専

修）の三人。これ以上ない超豪華メンバーである。

この日の演舞は、前日村の人びとに多大な感銘を与えた「ふれあい館」での放射線・放射能協働測定報告会来訪に続いて行われた。ハイライトは六大学野球会場・神宮球場の東大応援歌「ただひとつ」の熱唱である。応援団の大音声は村全体に響きわたる再生のエールとなった。エールにストレートに応えたのはわれらのアイドル・菅野次男さ

ん。美事な快音を響かせて高得点を奪取して優秀賞を授与された。佐須行政長・佐藤公一さんから3人の二日間の労を労い花束が贈呈された。

後日に特大の朗報。10月8日・東大宮台投手、一打逆転の場面で最後の打者を左飛に打ち取り東大野球部は15年ぶりに勝ち点をあげた。（毎日新聞、2017年10月9日）村のエールが神宮に届いた瞬間。わが3人衆の喜びやいかに。（撮影・文責：若林一平）

ふくしま 再生 短信

1 0 ・ 8 佐 須 菅 野 宗 夫 田 圃 収 穫 祭

※ いのちのめぐみ ※

2017年10月8日午前9時より飯舘村佐須滑の菅野宗夫さんの田圃で恒例の稲刈りが行われた。2012年の試験田作付けから数えて6回目の稲刈りになる。前日までの雨模様とは違って変わって朝から青空が広がる稲刈り日より。この日、団体参加は富士通SSL（ソーシャルサイエンスラボラトリ）、三重大・弘前大・四日市大のみなさん、加えて再生の会の有志のみなさん、総勢33



刈り取った稲束を手にとって

の合ったご夫婦で二人組みでテキパキと作業が進むさまは端で見ていても誠にきもちがいい。

人間の手とは僕らの稲刈りのこと。自然と人間の共生を体感するために再生の会が用意した行事である。団体参加のみなさんはチームワークよく稲束の山が次々と積み上がってゆく。手作業はここまで。脱穀はコンバインの機能をお借りして目黒さんご夫婦のお世話にな



手作業の稲刈り（写真上）
稲束は脱穀機へ（写真下）

名。今年も応援に駆けつけてくれたのは小宮の大久保金一さん。稲刈りで一番難しいのは藁で括る稲束づくり、実地指導してくれるのは金一さんである。

稲刈りそのものは機械と人間の手との協働作業であること、今年も例年と変わらない。今年の機械は丸森の目黒農園のコンバインである。実に息



「刈り上げ祝い」は稲刈り後に田の神に感謝する祝い。刈り上げ祭り。鎌

りました。富士通SSLのみなさん11人、再生の会の事業に共感し、田植えを含め持続的に参加の意向、ありがたいことです。午前で全て終了、刈り上げへ。

今年の米作りで最も心配されたのは日照時間が極端に短かったこと。しかし、幸いなことに粳はしっかり成長しており後日送っていただいた「佐須米」は

誠に美味極まりないものでした。田の神に感謝。
（文責&撮影・若林一平）



コンバインは刈取・脱穀・選別を自動化（写真上）。粳は運送トラックへ（写真下）。

刈り上げ

◆「刈り上げ」とは稲・麦を刈り終えること。「刈り上げ祝い」は稲刈り後に田の神に感謝する祝い。刈り上げ祭り。鎌

上げ。鎌納め。（松村明編『スーパー大辞林』第3版、2006-2008）◆田植えのあとの宴は早苗饗（さなぶり）。機械化される以前の田植え・稲刈りは村民総出の一大行事だ。宗夫田圃の刈り上げの宴で挨拶する金一さん（写真）。